

「大島北高等学校のシマ（集落）聞き書き調査活動」

1 学校名 大島北高等学校

2 学年・人数 1・2・3年，12人（聞き書きサークル）

3 日時・場所

(1) 調査の日時・場所

・郷土料理講習会

7月28日（鶏飯・ゴーヤー味噌，舟焼き）本校調理室

・広島経済大学・琉球大学との高大連携調査

8月2日 午前10時～正午 午後1時30分～午後3時（赤木名地区）

8月3日 午前10時～正午 午後1時30分～午後3時（手花部地区）

・広島経済大学・琉球大学の指導によるDST動画編集

12月2日 午前8時30分～正午，午後1時～午後4時…本校総合実践室
（原稿作成）

12月3日 午前8時30分～正午，午後1時～午後4時…本校総合実践室
（動画編集）

(2) 発表の日時・場所

12月10日 午前11時～正午 奄美市太陽ヶ丘総合体育館

奄美市主催笠利まちおこしフェスティバルにて生徒による活動発表
（2年A組佐藤）

1月28日 午前1時～午後2時 秋名コミュニティセンター

鹿児島大学環境学研究会主催「環境文化」について考えるシンポジウムにて パネリストとして活動発表
（2年普通科佐藤・岩崎，3年普通科本山）

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能，伝統行事について

(1) 名称 奄美市笠利町シマ（集落）聞き書き調査活動

(2) 由来

聞き書きサークルとは，地元の集落で高校生が高齢者や名人に話を伺い，それを書き起こし，まとめて地域に還元したり，グローバルに発信することで社会貢献する活動である。

(3) 構成等

赤木名・手花部地区で，高齢者や名人に，昔の美しい風景や楽しかったことや辛かったこと，伝え残したいものをインタビューした。話の中で，八月踊りや島唄，奄美の郷土料理・奄美の方言，大島紬等の伝統芸能や文化，美しい島の海や山の風景や戦時中や戦後の仕事や暮らしぶりが高校生に伝えられた。それを書き起こし調査報告誌を作成する。さらに，今回は聞き書きの内容に生徒の感想を加えたビデオ動画（DST）をまとめた。

5 保存会や地域との連携の具体

・奄美市教育委員会からは，研究冊子印刷費等の支援をいただいた。

- ・琉球大学・広島経済大学には，調査の指導助言から，ビデオ動画（D S T）製作の指導D S T作品の支援をいただいた。
- ・鹿児島大学との高大連携では，聞き書き活動を「環境文化」について考えるシンポジウムでパネリストとして発表する機会を与えていただいた。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

- ・奄美市教育委員会からは，研究冊子印刷費等の支援をいただいた。
- ・学校では，1年生全員に昨年の聞き書き活動を報じたニュース番組を見せ，目的や内容を周知して聞き書きサークルの参加者を募った。
- ・琉球大学・広島経済大学には，調査の指導助言から，ビデオ動画（D S T）製作の指導D S T作品の支援をいただいた。
- ・鹿児島大学環境研究会との高大連携では，聞き書きサークルの生徒に環境文化の取組としての聞き書き調査について発表する機会を与えて頂き，パネリストとしてシンポジウムに参加した。
- ・4年の本年度も調査報告冊子の作成を行う。また，ビデオ動画（D S T）もネット上に公開する予定である。

7 取組の様子（練習状況，発表の場等）



郷土料理講習会



聞き書き調査



動画原稿作成・編集

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

- ・「鶏飯を初めて作ったが，慣れてきてからは上手に作れた。島の料理については今後も学び，舟焼きなども作ってみたい」（郷土料理講習会参加者2年普通科生徒）
- ・「参加生徒が多いことに驚いた。親や家族が作っている姿を見ているからか，生徒の手際が良かった。島の料理を知る良い経験になったのでは。」（郷土料理講習会講師の地域の料理名人）
- ・「取材される側も昔を思い出し，集落のことを考える機会になる。今後もこの活動を継続して欲しい。」（聞き書き調査を受けた地域の方）
- ・「昔はいたが今はあまり見なくなった海の生物について両地区で話していたのが印象に残った。取材を活かししっかり文章にまとめたい。」
- ・聞き書き調査を元に自分の感想を組み込み動画作成を行った2年生普通科生徒「ナレーションの言葉選びが難しかった。ナレーションを読む上げることは緊張した。」（聞き書き調査をした2年普通科生徒）